

## 注意事項

本サンプル Cover Letter 及び CV は、あくまでも応募書類を作成する時に構成の参考としてご使用いただくためにあります。本サンプルを英語に直訳して自分のものにしたたり、表現をそのまま英語に変換して実際の応募書類に貼り付けたりして提出する行為はご遠慮ください。もしそのような行為が発覚した場合は、書き直しを要求する可能性がありますのでご了承ください。

ITER に応募するにあたって、どれだけ自分を自分の言葉でアピールできるかが成功への道に繋がります。プロジェクトに関する技術の経験や知識は勿論のこと、ITER に対する熱意が感じ取れるかどうかも評価に含まれます。自分がどのように ITER に貢献できるかをじっくり考慮した上で応募書類の作成に進めていただければと思います。

※3 ページ目以降の CV は、Cover Letter の元情報として表示しています。

CV の書き方については次項目にて詳しく説明しておりますので、そちらもご参照ください。

山田 太郎

〒166-0004 東京都杉並区阿佐ヶ谷 1234-56

Tel: +81(0)12 3456 7891 (勤務先), +81(0)98 7654 3210 (携帯電話)

Email: taro.yamada@taroyamada.co.jp

2016年2月12日

ITER 機構長

Pietro Barabaschi

ITER 機構

Route de Vinon sur Verdon

13067 St Paul Lez Durance, France

ITER 機構長バラバスチ様、

Project Control Section Leader ABC-123 (Ref. IO1234) の募集に対して応募している山田太郎と申します。原子力技術およびプロジェクト管理活動における 25 年間の経験を有し、本経験が募集要項に概要されている責務を果たすために有益です。私が求める ITER に向けた貢献と本募集の職務が完全一致するため、プロジェクトに大きな成果をもたらす自信があります。

沸騰水型原子炉、高速増殖炉、および六ヶ所にある再生工場に関する大規模な多分野にわたるプロジェクトにプロジェクトマネージャーとして 15 年以上、そして機械技術者として 10 年以上の間携わってきました。過去 15 年の間、高度なプロジェクトマネジメントスキルと独創力を利用して国際的な職場環境において挑戦的なプロジェクトを成功に導き、本達成について高評価を得られました。数々の達成のうち、最大と言える事跡は、焼却炉システムのために形成された多国籍の建設設計チームを監督した時で、機械的問題を解決することだけでなく、カナダ、米国、および中国の企業と協力して経費を追跡および削減することに成功しました。他にも関わってきた多くのプロジェクトにより、キャリアを上昇する絶好の機会と、傑出したリーダーに求められる強く柔軟な精神能力を鍛えられました。

このような経験以前に、高熱流束の下で FBR 構造の開発に関与していました。その結果、FEM コードベース分析法、ASME および MCC-MR デザインコード、手順、製造、検査の広範囲にわたる知識の他、大型の統合構造物の NDT と据付について身につけました。さらに、国内に限らず国際的に複数のプロジェクトを調整してきたので、どんな文化の環境の中でも気楽でいることができる上、個人的では勿論のこと、チームの一部としても非常に効率よく働ける自信があります。

上記の成果を踏まえて、本募集に対する最高の適任者であることを断言します。これまでの知識、能力、経験、および意欲を ITER 機構の一員として捧げることを光栄に思います。

未来のエネルギーの問題解決には核融合が非常に重要と考えており、その問題解決に貢献するためには、まったく新しいエネルギープロジェクトを正に開拓している ITER で働くことが自分の目標です。

この機会を非常にありがたく思います。ご連絡お待ちしております。

敬具

Taro Yamada

山田 太郎

履歴書



氏名: 山田太郎 (ヤマダタロウ)

歳: 51

国籍: 日本

住所: 〒166-0004 東京都杉並区阿佐ヶ谷 1234-56

Tel: +81(0)12 3456 7891 (勤務先), +81(0)98 7654 3210 (携帯電話)

Email: taro.yamada@taroyamada.co.jp

希望する職種: Project Control Section Leader ABC-123 (Ref. IO1234).

## 強み

- FBR、BWR および再生工場における 10 年以上の経験を有する自発的な結果思考のプロジェクトマネージャー。
- プロジェクトを駆動し、目的を達成するための優れた調整・交渉能力およびフォローアップに加え、組織的境界を超えるコミュニケーションと管理における優秀なスキルを有する。
- 原子力機器の FEM コードベース分析、設計プロセス、製造および検査の広範囲にわたる知識で大型の原子力機器の設計における 15 年以上の経験を有する。
- 米国および国内の両方で機械技術士の資格を持ち、確実な専門知識を有する。
- 国際プロジェクト管理に纏わる幅広い経験、および技術基準の知識とコンプライアンス。

## 実務経験・経歴

1996 年 – 現在: Hibachi 原子力エネルギー株式会社 (原子力業務ビジネス部)

役職: シニアエンジニア

2007 年 – 現在: BWR 業務プロジェクト管理

米国企業と協力して以下のプロジェクトの監督および指導:

- BWR-9 のための高度なジェットポンプの開発
- 沸騰水型原子炉と改良型沸騰水型原子炉のための格納容器システムの設置
- ABWR のための給水デブリストレーナの設計レビュー
- 多核種除去システムのためのポリシー文書、手順書および作業指示書の作成・実行、および工程管理プロセスの改善。

2004 年– 2007 年: ABWR (中国) プロジェクト管理

- カナダ、米国、および中国企業と協力して焼却炉におけるプロジェクト性能レビューの監視、および問題部分の識別。
- 据付システムにある問題を解決するため多国籍のチームの監督および調整、効率的なリスク管理計画の開発。
- カナダ会社と協力して改造機器の据付のためのオフガスにおける機械的トラブルの解決、事前運転試験の実行。

1996 年 – 2004 年: LWTF (Low-level Waste Treatment Facility) プロジェクト管理

- すべての機器の品質を調査するタスクチームの監督、フランスの設計規則順守確認。
- Hibachi メンバーと他企業の間で技術インターフェース/スケジュールの調整、関連経費の追跡・削減。
- 少なくとも 5 年間、LWTF の業務支援契約の管理経験。

1985 年 – 1995 年: Hibachi インフォメーション株式会社 (原子力施設課技術部)

役職: 主任研究員

1989年 – 1995年: 以下の調査において FBR (Fast Breeder Reactor) プロジェクト、研究および作業:

- FBR 建屋のための 2D ベース絶縁システムの開発設計 (機器の設計の単純化、経費削減計画)
- プール式 FBR 容器の非線形スロッシング現象における調査 (プレナム熱試験、流体解析、圧力伝搬解析)
- プール式 FBR システムのための実用可能性調査 (熱伝導解析、構造健全性の評価)

1985年 – 1989年: ウラン濃縮システム計画

- ウラン濃縮のための高速遠心ローターの開発設計

## 学歴

1982年 – 1984年: 東京工業大学 機械工学部

理学修士 機械工学 1984年3月 卒業

1978年 – 1982年: 東京工業大学 機械工学課程

理学士 機械工学 1982年3月 卒業

## 技術的資格

- 機械工学技術士、日本 (2005年, 登録番号 98764)
- 機械工学技術士、米国カリフォルニア州 (ライセンス番号 54321AB)
- 第二種電気工事士 (ライセンス番号 1234)
- 一般的な MS Office 知識、Cobra, Primavera

## 会員

- カリフォルニア州技術審査委員会 (米国)
- 日本機械学会 (JSME), 設計工学・システム部門

## 言語

- 英語: ビジネスレベル (TOEIC スコア: 930 点)
- 日本語: 母国語

## 刊行物

- Yamada, T. et al., "Study on analysis method to evaluate non-linear sloshing phenomenon in FBRs," ASME PVP, August 1991.
- Yamada, T. et al., "A study on a design method of rubber bearings for FBRs," Japan Society of Mechanical Engineers, April 1992.
- Yamada, T. et al., "Study on simplification of nuclear components using a 3D-based isolated system," IAPC User Experimental Report, Vol.16 (1994A), July 1995.
- Yamada, T. et al., "Study on design method in consideration of buckling of FBR vessels," Atomic Energy Society of Japan, October 2003.
- Yamada, T. et al., "Scenario study on ABWR core concepts for ABWR cycle development," Global 2005 congress, September 2005.
- Yamada, T. et al., "Study on advanced structural design for commercialized BWRs," Journal of Nuclear Science and Technology, Vol. 25, Issue 3, February 2008.